

過度な悲観論は払拭されファンダメンタルズに回帰

悲観論から抜け出した米国株式市場

年初来、中国経済の減速、原油安、米国経済に対する不透明感の台頭などが金融市場の波乱要因となり、米国株式相場は値の荒い展開で始まりました。

しかし、原油価格の反発、市場予想を上回る米国経済指標の発表、そしてFRB(米連邦準備制度理事会)高官によるハト派的な発言などを背景に、米国株式市場は2月中旬を境に上昇に転じました。

特に足元では、中国経済の安定化の兆しを示唆する経済指標や世界的な製造業PMI(購買担当者景気指数)の改善を受け、米国株式市場は年初来高値を更新しています。

米国株式市場はマクロ経済に対する悲観論の連鎖から抜け出し、今後の市場の注目点は企業決算などのファンダメンタルズに回帰すると思われます。

本格化する2016年1-3月期決算発表： 切り下がった期待値を上回ることができるか

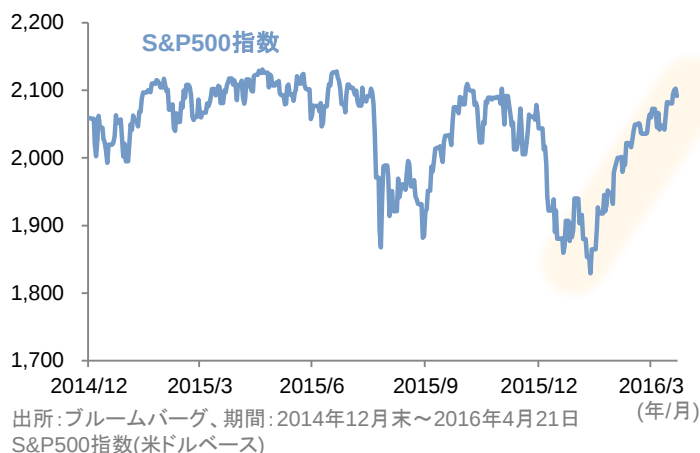
米国企業の2016年1-3月期の決算発表が本格化しつつあります。市場では、前年同期比9.5%程度の減益が予想されています。依然としてエネルギー・セクターの減益が大きく足を引っ張る形となりますが、今四半期は除くエネルギー・セクター・ベースでも前年同期比で小幅の減益が予想されています。

年初来、原油価格の続落を主因に、市場の業績予想は大きく下方修正され、今回の減益は株式市場に概ね織り込まれました。足元、原油価格の底入れと米ドル高の反転が見られる中、発表される決算が事前の低い期待値を上回ることができるか、そして今後のガイダンスでポジティブな内容を確認できるかが、これからの米国株式市場を占う上で重要となります。

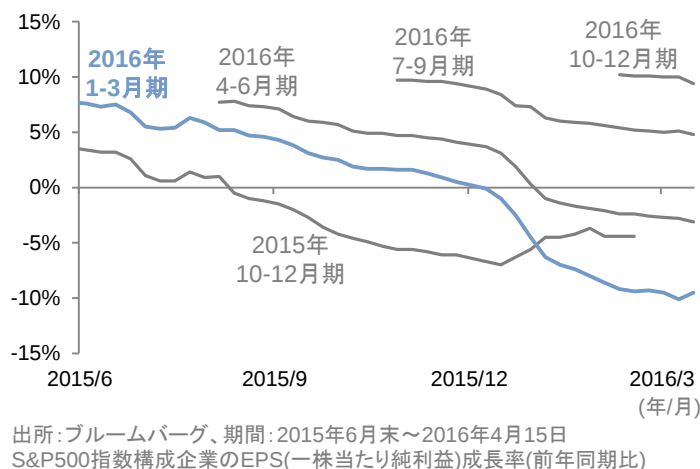
4月21日時点、S&P500指数構成企業の111社が決算発表を終え、うち77%の企業が市場予想を上回る利益を発表しています。過去平均が6割強であることから、比較的良好なスタートを切ったと言えます。

また、今後は米ドル高と原油安の影響が一巡することなどから、米国企業の増益率は4-6月期以降に改善に向かうと見られます。米国経済が緩やかな拡大ペースを維持する中で、通年での成長率は、2017年は前年比+13.5%、2018年は同+11.6%と2016年から大幅な加速が見込まれます。企業の利益成長に沿った株価リターンが期待される中で、米国株式は依然として魅力的な資産クラスだと考えられます。

米国株式市場の推移



米国企業の利益成長率予想の推移



米国企業の利益成長率予想

